大手前大学における教学 IR の展望

A Vision of Institutional Research at Otemae University

近藤 伸彦*・高村 麻実*
CELL 教育研究所研究員*

大手前大学では、卒業生の質保証のための「学士課程教育のグランドデザイン」にもとづいて、あらゆる教育活動を行うものとしている。学内外のデータにもとづいて教育改善を行う教学 IR（Institutional Research）の立場においては、あらゆる教育活動の実施状況や成果を、グランドデザインとの対比の中で明らかにしていくことが求められる。本稿では、このような本学における教学 IR のありかたや計画などについて報告する。

キーワード：教学 IR、学士課程教育のグランドデザイン、学修成果

1. はじめに

近年、日本の高等教育において、教育や経営の改善に資するデータの収集・分析等を行うIR (Institutional Research）が多大な注目を集めている。

大手前大学（以下、本学という。）では、卒業生の質保証に向けた「学士課程教育のグランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。)」を制定し、すべての教育活動がこれにもとづいて活動することとしている。その実態や成果を明らかにするためには、学内にIRの機能、とくに「教学IR」とよばれる機能をもち、組織的、計画的に実行していくことが必要である。

本稿では、本学における教学IRのありかたについて検討し、今後の展望について述べる。

2. 大手前大学の教学 IR

2.1. 教学 IR

IRにはさまざまな機能があり、これまでにいくつかの分類モデルが提案されている。たとえば沖らは、経営改善、教育改善、認証評価・情報提供の3種類の視点からIRの実践例の分類を試みている（沖・岡田 2011)。日本独自に発達した概念として、上の分類のうち教育改善に関する機能をさす「教学IR」があり、この教学IRがもつべき重要な機能として、KPI（Key Performance Indicator:重要業績評価指標）の策定とその共有がある（松田 2014)。

2.2. 質保証のグランドデザインと教学 IR

本学では、ディプロマポリシーに示される卒業生像へ学生を導き、その質を保証するために「グランドデザイン」を制定し、学生が身につけるべき能力やその時期、またこれを実現するための方法の指針などを示しており、全学的にすべての教育活動がこれを参照し、質保証の実現に向けて活動することとしている。

教学IRの立場においては、あらゆる教育活動が「グランドデザイン」に沿って設計され実施されているかどうか、また学生がその学修成果として「グランドデザイン」に示された目標値を達成しているかどうかを明らかにすることが必要である。すなわち、「グランドデザイン」にもとづく活動の実施状況や学修成果などについて適切な指標と測定方法を定め、これをKPIとしてPDCAサイクルを回すことが必要である。

KPIは、KGI（Key Goal Indicator: 重要目標達成指標）の達成に向けて、プロセスが適切に実行されているかを計測するための指標である。本学における（教学面での）KGIは、本学のディプロマポリシーにおける条件を達成する卒業生の割合や、建学の精神・使命にもとづく教育の実現度であり、数値としては「進路決定率」や「学生満足度」などがそれにあたるであろう。これを達成するために「グランドデザイン」の中でさまざまな規準が設定され、それぞれに対して目標とその時期が明示されている。これをブレークダウンし、具体的・可視的に評価する指標が、本学の（教学面での）KPIであるといえる。これを適切に定め、測定・評価を繰り返していくことが本学の教学IRの重要な役割である。

2.3. エンロールメント・マネジメントと教学 IR

「グランドデザイン」にもとづく教育活動の状況と成果の可視化に加え、入学前から卒業後までの一貫した学生支援であるエンロールメント・マネジメントに資するデータの分析・評価もまた教学IRの担う重要な機能である。

学内には学生に関する膨大なデータがある。これを時系列に整理して学修ライフログ化し、この大規模データから数理的アプローチにより学生支援のための知識を発見し、これを活用することが今後は求められるであろう（近藤・畠中 2014）。

2.4. 組織的な教学 IR 活動

表 1 に示すように、教学 IR を推進するうえで必要となるデータは多岐にわたり、現時点ではさまざまな部署やシステムに散在している。

また、しばしば各部署において独立にデータの分析や評価などが行われ、その結果は学内の種々の会議等において公開されているものもあるが、これらは学内において一元的に管理されてはいない。

教学 IR の担当部署は、これらの全体像を把握し、データおよびレポートの管理や分析作業のマネジメントをしていくことがその役割となるであろう。またこれに加え、大学執行部などから分析を受託することもその機能のひとつとなるであろう。

表 1 学生に関するデータと所管部署（近藤・畠中 2014）

部署	主なデータ
教学運営室	入学前学習取組状況、出欠席（全授業・オリエンテーション等）、全学実施の試験結果、学習アンケート、インタビュー調査
学習支援センター	課題提出状況、学習支援センター利用状況、チューター報告書
教務課	成績、履修状況、三者面談記録、学生異動
学生課	学籍情報、アルバイト・サークル状況、奨学金、学生アンケート、特殊支援報告書
ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｽﾞｵﾌｨｽ	入試種別、出身校課程、出身校評定値、入試成績
情報ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ	LMS 上の学習データ、LMS 利用ログ、その他システム利用ログ
ｷｬﾘｱｻﾎﾟｰﾄ室	進路決定状況、就職活動履歴、面談結果
就業力育成支援室	学修振り返り、プレゼン映像、自己アピール
資格ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ	資格講座受講状況、資格取得状況
図書館	図書貸出履歴、OPAC 利用ログ
各教員	各授業の課題、テスト結果等

2.5. 分析結果の公開と活用

教学 IR 担当部署では、前節で示したような組織的なデータ共有や分析・評価活動を公開するための「教学 IR レポート（仮称）」を作成予定である。定期的に公開すべき情報をまとめたファクトブックのような位置づけのレポートである。

「グランドデザイン」には「自己教育」「情報活用力」「外国語コミュニケーション力」といった複数の項目があるが、これらの項目ごとに、その実施・推進状況、および学生の到達状況を報告する。すなわち、このレポートにより、「グランドデザイン」の項目ごとの KPI の設定と、現状の成果についての可能な範囲での測定を行う。KPI の測定ができない状態にあるものについてもその現状を明らかにする。

このレポートをもとに、「グランドデザイン」に関する現状や、学生の修学状況を踏まえたうえでの具体的な施策の立案や、FD・SD 活動へとつなげていくことをねらう。

3. おわりに

本稿では、本学における組織的な教学 IR のありかたについて述べた。今後、この展望をもとに具体的な教学 IR 活動の実行に移り、その結果を報告したい。

参考文献

沖清豪，岡田聡志（編著）（2011）『日本におけるインスティテューショナル・リサーチの可能性と課題―実践例からの示唆―』，東京，139 –157.

松田岳士 （2014） 教学 IR の役割と実践事例―エビデンスベースの教育質保証をめざして―，教育システム情報学会誌, 31(1), 19-27.

近藤伸彦，畠中利治（2014） 大規模学修データからのライフログ抽出とその活用，教育システム情報学会第 39 回全国大会講演論文集, 305-306.

SUMMARY

In Otemae University, all the educational activities are implemented based on the grand design of the baccalaureate degree program. From the viewpoint of institutional research (IR), it is desired that the present condition of the education activities and the learning outcomes of students will be clarified with several educational data. In this paper, a vision of Otemae University's IR is reported.

KEYWORDS: INSTITUTIONAL RESEARCH,
THE GRAND DESIGN OF BACCALAUREATE
DEGREE PROGRAM, LEARNING OUTCOME